［富津市］　吉野地区社会福祉協議会

話し合いから生まれた地域に根ざした取り組み



左から、吉野地区社協 福祉推進員 石井春江さん、会長 大森菊雄さん、副会長 岡村文子さん（富津市役所のオブジェ「Fの未来」前にて）

富津市の中部に位置する吉野地区社会福祉協議会（以下、吉野地区社協）は、「地域福祉フォーラム」の取り組みの中でアンケート調査を行い、地域のニーズや課題を探り、議論を重ね、その話し合いの中から「ふれあいサロン」を始めとするさまざまな事業をスタートさせてきました。議論から実践へ、「地域福祉フォーラム」を具体的な取り組み・活動に結実させた富津市の吉野地区社協を紹介します。

吉野地区社協の取り組み

吉野地区には現在、3,753人の人々が暮らしています。しかし、その内の1,151人が65歳以上であり、高齢化率は30.67％となっています。（平成26年4月現在）

年々、住民の高齢化が進む中で吉野地区社協は、年5回の一人暮らし高齢者に対する「給食サービス」や、毎年６月の「高齢者とのバス旅行」などを実施しています。また、地区社協だより「ふくしよしの」を年２～３回発行しています。そして９月には、吉野保育所、吉野小学校、大貫中学校の吹奏楽部など、地元の方々の協力による異世代交流イベント「ふれあいの集い」を開催するなど、地区社協としての活動を精力的に展開しています。

地域福祉フォーラムから生まれたふれあいサロン「よしの」

吉野地区社協が現在、最も力を注いでいる事業が、月１回、第３月曜日に開催している、ふれあいサロン「よしの」です。

地域福祉フォーラムの取り組みの中でアンケート調査を行い、その結果から生まれたこの事業は、平成25年4月に初回を開催。以降、回を重ねるごとに参加者もスタッフも増え続けています。

活動内容は、お茶を飲みながらのおしゃべり、健康体操、ゲームなど様々。高齢者が無理なく楽しめて、なおかつスタッフも一緒に楽しめる内容となっています。

さらに、お花見や「望年会」と称する忘年会、バスを利用しての小旅行など、様々なイベントも開催。これまでに一番盛り上がったイベントは「運動会」で、参加者は皆、童心に返って熱中しました。あるスタッフは、「皆さんがあまりにも頑張るので、見ていてハラハラドキドキでした」と楽しく振りかえっていました。



会議のようす

ふれあいサロン「よしの」の運営で最も心がけているのは、参加者の安全。けがや病気、行き帰りの事故などには、常に気を配っているそうです。

今後は、防災・避難訓練などを計画しているほか、健康面を重視した内容の充実を図りたいとのことです。

富津市社協と協働で買い物支援を実現

アンケート調査の結果、ふれあいサロンと同じくらい要望が多かったのが、高齢者のための買い物支援です。しかし、車の手配や保険など、吉野地区社協のみでは解決し難い問題が数多くありました。

そこで、富津市社協に相談を持ちかけたところ、平成26年度の地域福祉事業に、「買い物支援事業」が新たに加わることになりました。

地区社協のニーズに市社協が応える形となった今回の「買い物支援事業」は、地区社協と市社協の連携・協働により、住民により質の高い福祉サービスを提供できるという、好事例となったのではないでしょうか。

福祉サービス向上のため、様々な取り組みをしている吉野地区社協ですが、事業の参加者やスタッフに男性が少ないことが現在の悩みとのこと。今後、男性を含めてもっともっと輪を広げていきたいとのことです。



運動会（玉入れ）



運動会（ボール送り）



花見会（鋸南町 佐久間ダムにて）



望年会（新しい年に希望を託す会）

富津市社会福祉協議会

「買い物支援事業」など地域のニーズに即した新規事業を展開中



富津市社協
石井　聡さん

富津市社会福祉協議会（以下、富津市社協）は、少子・高齢化が進む中、11の地区社協と密に連携しながら、地域福祉や共同募金などの事業はもちろん、多種多様な福祉事業を展開しています。

業者に依頼するほどではない、「換気扇のフードが取れた」「電球の交換をして欲しい」などといった依頼に、富津市社協の職員が直接赴いて解決する「ちょっと困ったお助け隊」などがその一例です。相談事業に関しては、「法律相談」「子育てなんでも相談」「シルバー相談」「福祉相談なんでも窓口」の計４つがあり、ワンストップでの解決を目指しています。地区社協の財源確保を目的とした「一円玉募金事業」も、富津市社協ならではです。

平成26年度からの新規事業としては、吉野地区社協からも強い要望があった「買い物支援事業」を7～9月の間にスタートさせます。地域のニーズに応えた新規事業なので、きっと喜んでいただけると考えています。

また、「福祉教育」に関してですが、中高生に災害対策意識を高めてもらうことを目的に、8月の夏休みに東日本大震災の被災地での研修を予定しています。

そして、富津市からの委託事業として、「大佐和地区地域包括支援センター」の運営を4月から始めました。地域包括支援センターは、地域住民の生活や健康のために必要な援助や支援を包括的に担う中核機関という位置づけであり、責任の重さと同時にやりがいも感じています。

平成26年度の目玉としては、「富津市社会福祉協議会 利用の手引き」を発行し全戸に配布します。これまで、富津市社協が富津市役所内にあるという理由もあり、富津市社協で行っている事業と、富津市で行っている事業を、市民の方々が混同してしまうことが多々ありました。しかし、この「利用の手引き」を読んでいただければ、富津市社協の事業内容や利用の仕方が、具体的にわかっていただけると思います。

今後は広報活動にも力を入れ、富津市社協の存在をさらにアピールすると共に、「地域福祉フォーラム」をさらに広めたいと考えています。

※富津市人口：47,411人　65歳以上人口：15,322人　高齢化率：32.3％（平成26年4月現在）